

2022 年度現勢調査の実施

2022 年4月から5月に 2022 年度現勢調査を行いました。ただ、地区内のネットワークを中心とした情報収集であるために、十分な調査とは言えませんが（7月3日時点で未回答の県については、昨年度同様と想定して）聴覚障害教職員の総数は 548 名となりました。2021 年度の退職者 12 名を昨年度の現勢調査報告の総数 530 名から差し引いて比較すると 30 名の増加になります。今年度の新規採用者は 29 名でした。

<全体の傾向>（統計データについては一部のみで割愛させていただきます。）

- ・全ての県の聾学校に聴覚障害教職員が在籍しています。
- ・職種別に見ると、教諭が全体のほぼ 70%を占めています。その他、事務職など雇用形態の多様化の傾向があります。
- ・年齢別に見ると、年齢が把握できない分を除いて、20代が26%、30代が31%、40代が20%、50代が11%、60代が4%の割合となっています。20代と30代で全体の6割を占めています。
- ・県別に見ると、一番多いのは東京都と大阪府（共に59人）でした。
- ・管理職としての校長は、私立明晴学園の1名です。教頭は私立明晴学園（2名）と埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園と岡山県立岡山聾学校の4名です。また、首席教諭や主幹教諭となって、準管理職として学校運営に携わる教員もいます。定年退職後の再任用、新しい職種の設定など雇用形態の多様化がみられます。